

Sun Java™ System Messaging Server リリースノート (Microsoft Windows 版)

バージョン 6.2 2005Q4

Part No. 819-5861

このリリースノートでは、Sun Java System Messaging Server 6.2 2005Q4 および Sun Java System Communications Services Delegated Administrator 6 2005Q4 (Microsoft Windows 版) のリリース時点における重要な情報について説明します。このリリースには、既知の問題点と制限事項、およびその他の情報が含まれています。Messaging Server 6.2 2005Q4 および Delegated Administrator 6 2005Q4 の使用を開始する前に、このリリースノートをお読みください。

このリリースノートには、以下の項目があります。

- [リリースノートの改訂履歴](#)
- [Messaging Server 6.2 2005Q4 について](#)
- [このリリースで修正されたバグ](#)
- [重要な情報](#)
- [既知の問題と制限事項](#)
- [再配布可能なファイル](#)
- [問題のレポートとフィードバックの提供方法](#)
- [Sun が提供しているその他の情報](#)

このリリースノートにあるサードパーティーの URL を参照すると、追加および関連情報を入手できます。

注

Sun は、このリリースノートに記載されたサードパーティーの Web サイトの有効性および有用性に関して責任を負いません。こうしたサイトやリソース上またはこれらを通じて利用できるコンテンツ、広告、製品、その他の資料についてサンは推奨しているわけではなく、サンはいかなる責任も負いません。こうしたサイトやリソース上で、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、製品、サービスを利用または信頼したことに伴って発生した(あるいは発生したと主張される)いかなる損害や損失についても、サンは直接的にも間接的にも、一切の責任を負いません。

リリースノートの改訂履歴

表 1 改訂履歴

日付	変更の説明
2006年2月	商用リリース。
2005年11月	ベータリリース。

Messaging Server 6.2 2005Q4 について

Messaging Server は、ユーザー数を数千から数百万に拡大することができる、高性能で安全性の高いメッセージングプラットフォームです。ユーザー認証、セッション暗号化、およびスパムやウイルスを防ぐための適切なコンテンツフィルタリングによって通信の完全性を保証する、幅広いセキュリティー機能を備えています。Messaging Server をご使用いただくと、企業やサービスプロバイダは、信頼性の高いセキュアなメッセージングサービスを従業員、パートナー、顧客のコミュニティ全体に提供できます。

Messaging Server は、オープンなインターネット標準を使用して、電子メールに対するニーズを満たすあらゆる企業とメッセージングホストに柔軟性に富む強力なソリューションを提供します。

この節では、次の項目について説明します。

- [Messaging Server 6.2 2005Q4 の新機能](#)
- [推奨されなくなった機能](#)
- [システム要件](#)

Messaging Server 6.2 2005Q4 の新機能

Messaging Server 6.2 2005Q4 リリースには、次の新機能と拡張機能が追加されました。

- **Communications Server Delegated Administrator** は、Messaging Server および Sun Java System Calendar Server (Calendar Server) のユーザーのプロビジョニングに推奨される機能です。詳細については、「[Sun Java System Communications Services Delegated Administrator 6 2005Q4](#)」を参照してください。
- **Access Manager** (以前の名称は Identity Server) Services は、Messaging Server と Calendar Server に LDAP ユーザーエントリプロビジョニングを提供します。Access Manager Services インタフェースで入力検査が可能になりました。詳細については、<http://docs.sun.com/app/docs/coll/1292.1> を参照してください。

- **MTA の新機能**

使用中のトランスポートプロトコルのタイプ (SMTP/ESMTP/LMTP) がログに記録され、各種アクセスマッピングに利用できるようになりました。mail.log* ファイルのアクションインジケータの後に表示される修飾子セットに、新たに次の 2 つの修飾子文字が追加されました。

E - EHLO コマンドが実行されるか受け入れられ、その際に ESMTP が使用されました。

L - LMTP が使用されました。

これまでは、表示される修飾子文字は A (SASL 認証が使用されました) と S (TLS/SSL が使用されました) のみでした。さらに、\$E フラグと \$L フラグがそれぞれ各種 *_ACCESS マッピングに対して適切に設定されるようになります。

スパムフィルタによって戻される判定との突き合わせに使用する文字列に、ワイルドカードが使用できるようになりました。

imsimta エンコードで、新たに次の 3 つのスイッチがサポートされるようになりました。

-disposition=VALUE content-disposition を指定した値 (VALUE) に設定します。

-parameters=NAME=VALUE 1 つまたは複数の追加 content-type パラメータとその値を指定します。

-dparameters=NAME=VALUE 1 つまたは複数の追加 content-disposition パラメータとその値を指定します。

DOMAIN_UPLEVEL MTA オプションのビット 4 (値 16) を使用して、アドレス逆書き換えを処理する方法を次のいずれかで制御します。

(1) アドレスが mailEquivalentAddress (ビットクリア) である場合は、アドレス逆書き換えをスキップする。

(2) アドレスが mailAlternateAddress (ビットセット) である場合は、アドレス逆書き換えを実行する。

[envelope_from] 非定位置エイリアスパラメータ、定位置エイリアスパラメータへのエラー、または mgrpErrorsTo LDAP 属性の値として値 (/) が指定されている場合、メーリングリストのセマンティクスは保持しつつ、受信メッセージのアドレスから元のエンベロープの使用に戻す要求として解釈されるようになりました。これは、すべての形式のリストエラーを送信元に報告するメーリングリストを設定するのに便利です。

ジョブコントローラのディレクトリスイープが更新されました。キューディレクトリ内のすべてのファイルを検出された順序で読み取るのではなく、複数のチャネルキューディレクトリを一度に読み取ります。これにより、起動時、再起動時、また max_messages を超過した場合の動作がよりいっそう無駄のないものとなります。一度に読み取るディレクトリの数は、ジョブコントローラの

Rebuild_Parallel_Channel オプションによって制御されます。このオプションは 1 から 100 までの任意の値を取ることができ、デフォルトは 12 です。

Sieve インタプリタで、通知または不在通知アクションによって応答メッセージが生成されたかどうかを管理し、必要に応じてその情報をログに記録できるようになりました。

オプションの `Rebuild_In_Order` パラメータが `job_controller` に追加されました。このパラメータをゼロ以外の値に設定すると、ジョブコントローラは起動時にそれまで試行されていない (ZZ*) メッセージを作成順に配信キューに追加します。これまでの (デフォルトの) 動作は、ディスク上で検出された順序でメッセージを追加するというものです。キューを順番に再作成するには、関連コストがかかります。

要求した不在通知応答が送信されない付加的な理由が、一部ログに記録されるようになりました。

Messaging Server には追加の機能および更新が導入されましたが、それらについては次回のベータ版更新リリースノートで説明されます。

推奨されなくなった機能

次に示す機能のサポートは、将来のリリースでは削除される可能性があります。

管理コンソール

Sun Java System 管理コンソールは推奨されなくなっており、将来のリリースでは Messaging Server 製品から削除されます。

システム要件

ここでは、このリリースの Messaging Server に対するプラットフォーム、クライアント製品、およびソフトウェアの追加要件について説明します。

- [対応プラットフォーム](#)
- [クライアントソフトウェアの要件](#)
- [製品のバージョン間の互換性に関する要件](#)
- [Messaging Server の Administration Server の使用](#)
- [ソフトウェアの追加要件](#)

対応プラットフォーム

このリリースは次のプラットフォームに対応しています。

- Microsoft Windows 2003 Enterprise Server
- Microsoft Windows 2000 Advanced Server SP4
- Microsoft Windows XP SP1 および SP2

Windows プラットフォーム要件の詳細については、次のマニュアルを参照してください。
『Sun Java Enterprise System 2005Q4 リリースノート (Microsoft Windows 版)』
(<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-5794?l=ja>)

注 Messaging Server のパフォーマンスは、CPU のパワー、使用可能なメモリ、ディスク容量、ファイルシステムのパフォーマンス、使用パターン、ネットワークの帯域幅など、さまざまな要因によって左右されます。たとえば、スループットはファイルシステムのパフォーマンスに直接関連します。サイジングおよびパフォーマンスについてのご質問は、Sun Java System のご購入先にお問い合わせください。

クライアントソフトウェアの要件

Messenger Express のアクセスを可能にするために、Messaging Server には JavaScript 対応ブラウザが必要です。最適なパフォーマンスを得るために、次の表に示すブラウザを推奨します。

表 2 Messaging Server 6 2005Q4 の推奨クライアントソフトウェア

ブラウザ	Windows
Netscape™ Communicator	7.0
Internet Explorer	5.5 または 6.0
Mozilla™	1.2 または 1.4

製品のバージョン間の互換性に関する要件

Messaging Server と互換性がある製品のバージョンを、次の表に示します。

表 3 製品のバージョン間の互換性に関する要件

製品	バージョン
Sun Java System Directory Server	5.1, 5.2, 5.2.4
Sun Java System Access Manager	6.1 (コマンド行インタフェースのみ) 7
Sun Java System Web Server	6.1 (ただし、iPlanet™ Delegated Administrator を使用する場合は 6.0 Service Pack 5 が必要)

NSS バージョン要件

Messaging Server 6.2 2005Q4 には、共有セキュリティーコンポーネントの NSS バージョン 3.9.4 を使用する必要があります。

製品のバージョンの依存関係については、次のマニュアルを参照してください。

- 『Sun Java Enterprise System 2005Q4 インストールガイド (Unix 版)』
(<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-3313?l=ja>)
- 『Sun Java Enterprise System 2005Q4 インストールガイド (Microsoft Windows 版)』
(<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-5408?l=ja>)
- 『Sun Java Enterprise System リリースノート』
(<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-3421?l=ja>)

Messaging Server の Administration Server の使用

Messaging Server は、次の目的で Administration Server を使用します。

- Messaging Server の管理にコンソールを使用する場合は、同じマシンで Administration Server が稼動している必要があります。
- Messaging Server を設定すると、Messaging Server は Administration Server の設定ファイルを読み取ります。ただし、これを行うために Administration Server が稼動している必要はありません。

ソフトウェアの追加要件

Messaging Server の本番導入では、高性能キャッシュを使用する DNS サーバーがローカルネットワークに必要です。Messaging Server のパフォーマンスは、DNS サーバーの応答性とスケーラビリティに大きく依存します。

また、DNS が適切に設定されており、ローカルサブネット上にないホストへのルーティングが明確に指定されていることを確認してください。

`¥WINNT¥system32¥drivers¥etc¥hosts` ファイルの最初のホスト名が FQDN になっていることを確認してください。

`¥WINNT¥system32¥drivers¥etc¥hosts` ファイルのインターネットホストテーブルに、次のような複数行が含まれている場合があります。

```
123.456.78.910 budgie.west.sesta.com
123.456.78.910 budgie loghost mailhost
```

このような場合は、この行をホストの IP アドレスにつき 1 行になるように変更します。最初のホスト名は完全修飾ドメイン名にするようにします。例：

```
123.456.78.910 budgie.west.sun.com budgie loghost mailhost
```

このリリースで修正されたバグ

Messaging Server 6 2005Q4 リリースで修正されたバグについて説明します。

このリリースで修正されたバグの完全な一覧は、Messaging Server のコアソフトウェアパッチとともに配布された README ファイルを参照してください。

表 4 Messaging Server 6.2 2005Q4 で修正されたバグ

バグ ID	バグの説明
4962377	ログの記録に承認情報が含まれるようになった
4974428	パッケージのデフォルト BASEDIR が /opt になる
4985907	日本語の配信レポートが壊れている
4987384	SunONE_MsgSvr スクリプトが不要な -n を出力する
5048159	サイズの大きな断片化したメールボックスに対して STATUS コマンドの処理速度が遅くなる
5060638	フランス語ローカライズ版: 「Mettre a jour」 ラベルの <code>&agrave;</code> が、アクセント記号付きの a で表示される
5064300	フォルダ / サブフォルダの数を制限する設定オプションが必要
5091535	XFILE: 5090205, tcp_smtp_server が SSL を使用した LDAP でコアダンプする
5098299	Communications Express からのログアウト中に amSession ログに通知障害エラーが記録される
5100202	「アドレスの追加:」で個人用アドレス帳に追加されないエントリがある
5104279	返信ジョブが「緊急」優先度のメッセージを認識しない
5106562	不正なコマンドによって imsimta qm がコアダンプすることがある
6183650	tcp_smtp_server のパフォーマンス問題 (CPU 使用率が 100% になる)
6184095	アップグレードスクリプトで autoreply チャンネルを非推奨にすべきである
6186334	S/MIME: アプレットの HTTP 接続が失われたときに、WMAP コマンドが再試行される
6191074	フォルダごとのメッセージやログメッセージの実際の個数に要求制限がある

表 4 Messaging Server 6.2 2005Q4 で修正されたバグ (続き)

バグ ID	バグの説明
6196349	ヘッダーの制約を使って有効期限ルールを設定すると、コンソールがハングアップする
6196879	ユーザーオリジナルの電送 (over the wire) ログイン ID が MMP ログ出力に含まれる
6198129	ユーザーが制限容量を超えたときの制限容量バーが正しくない
6199242	アクセント記号付きのメッセージが正しく表示されない
6200132	要求された優先度で SMIME メッセージが送信されない
6200692	個人用フォルダから共有フォルダへの RENAME 操作は成功するが、ユーザーがそのフォルダを表示できない
6202176	imsbackup がユーザー定義フラグをバックアップしない
6203551	SPARC から x86 に復元する際にシステムフラグが復元されない
6204204	Content-Length を無視するように imsimport に -i オプションを追加する
6204294	共有フォルダをクリックしてから受信箱をクリックすると、JavaScript エラーが発生する
6204409	メール転送先アドレスを入力しなくてもメール転送を設定できる
6204911	msprobe がメッセージを imta ログファイルに記録する
6205866	imsimport が、From_line に含まれる新しい先頭の 2 行をチェックしていない
6205957	service.readtimeout がデフォルトで 30 に設定されるべきである
6206104	不正な store.sub の修正に reconstruct (または何らかのツール) が必要となる
6206193	複数のパッケージが同一のバイナリを SUNWmsgwm と SUNWmsges に提供する
6207499	mboxutil -o コマンドを中断できない
6207512	しきい値を超えた場合、imsrestore は 2 回目の試行時に受信箱を復元する
6207518	mboxutil -d が未知のコード __9F 242 を返す
6207865	プロセスの終了を待つストアプロシージャのタイムアウトは有限でなければならない
6209210	SMTP と組み合わせた場合、immonitor-access による IMAP 時間の計算が間違っているようにみえる
6209318	SNMP サブエージェントの起動が失敗する
6211683	メールのタブからほかのタブに移動すると、フォルダツリーが表示されなくなる
6211969	sleepycat トランザクションが失敗したときにメモリーが壊れる場合がある
6212021	reconstruct -m から制限容量の修正が報告されるが、実際には修正されていない

表 4 Messaging Server 6.2 2005Q4 で修正されたバグ (続き)

バグ ID	バグの説明
6212408	壊れたメールボックスを開くとメモリーリークが発生する
6212524	メールボックスが壊れていると、reconstruct でメモリーリークが発生する
6213176	ユーティリティーは、監視が実行されていないことを、ログに記録するだけでなく、ユーザーにも通知するべきである
6214039	spamfilterXoptin が壊れている
6214056	解析不可能なアドレスヘッダーフィールドをエンコードする
6214098	mboxutil の使用法の修正: -d オプションのエントリが重複しており、-P が -d の有効なパラメータとして記載されていない
6214559	ユーザーが「詳細メッセージヘッダーの表示」をクリックすると、未開封メッセージのカウント数が表示されなくなる
6214941	接続ユーザーが存在しないときに、imsconnutil -c がスタア緊急エラーをログに記録する
6215105	Messaging Server コンソールからサービス (IMAP/POP/MTA/HTTP) を起動または停止できない
6215535	暗号化用の証明書の有効期限が切れていると、受信者に対して有効な署名が無効な署名として表示される
6215928	8 ビットヘッダーをエンコードする (送信者)
6217848	mailmessagestore LDAP 属性が無効である場合に ims_master がコアダンプする
6218016	RFE: MAX_MESSAGES 超過時にログメッセージが自動生成される
6218085	メールボックス内に何も存在していない場合にメールボックスが壊れたと報告される
6219856	5.2P2 から 6.2 へのアップグレード: プライマリパーティションパスが変更されない
6219866	5.2P2 から 6.2 へのアップグレード: make_mta_config_changes.sh が、特定のコピーコマンドで失敗する
6220293	起動がより適切なものになるような方法で、ジョブコントローラの再構築を実行する
6221332	201 応答を避けるために ICAP 要求文字列を変更する
6221409	Brightmail の新しいバージョンに対応するためのスパムフィルタサポートの強化
6221971	変更後に管理コンソール経由でメッセージングサービスを再起動できない
6222031	URL_RESULT_CACHE_SIZE が 0 に設定されていると、URL 結果の処理が異常終了する
6222639	遅延メッセージのカウント中に管理エラーが発生する

表 4 Messaging Server 6.2 2005Q4 で修正されたバグ (続き)

バグ ID	バグの説明
6222841	サブフォルダの作成後にフォルダを削除しようとする時、HTTP デーモンがクラッシュする
6223834	ホスト対象ドメイン内にユーザーが存在していると、immonitor-access -I がコアダンプする
6223848	reconstruct がキャッシュレコード内のすべての null を通知しない
6225212	ドイツ語で起動された管理コンソールが、or に対して有効期限ルールをドイツ語で設定する
6225252	imsimport が、大文字のドメイン名を使ってメールボックスを作成する
6225506	顧客が、自動返信メッセージで \$subject の使用を望んでいる
6225708	iBiff での Ctrl+C キー押下時に再構築コアが生成される
6225730	大文字と小文字を区別することが、reconstruct で問題を引き起こす
6226020	imsimta encode -header -filename で複数のファイルを指定すると、境界マーカの作成が失敗する
6226161	/opt/SUNWmsgsr/install に格納されたバージョンの comm_dssetup.pl が、Access Manager を破壊する
6226915	AUTH_REWRITE 内の引数なしの \$N が、デフォルトのエラーテキストを取得しない
6227966	msuserpurge コマンドを中断できない (Ctrl+C キーが効かない)
6228002	更新中に imsched がコアダンプする
6229781	IMAP フォルダで監査アクセス制御が変更される
6230704	SNMP が、すべてのメッセージアクセス情報に対して値 0 を表示する
6231048	job_controller が addtopriorityqueue (ETRN) でループする
6231202	ログファイル内の Y レコードに不要な情報が含まれる
6231361	ユーザーごとに大きな制限容量を設定しているときに問題が発生する
6231733	ヒューリスティックな解析を使って AUTH_REWRITE のヘッダーからアドレスを抽出する
6231993	デフラグチャネルのキューからメッセージが削除されない
6232090	ディスパッチャーデーモンの強制終了後、プローブテストによるディスパッチャーデーモンの再起動が失敗する
6232268	制限容量情報が利用不可能な場合、MTA からストアに "" が制限容量値として渡される
6232311	transactionlimit キーワードが正しく機能しない

表 4 Messaging Server 6.2 2005Q4 で修正されたバグ (続き)

バグ ID	バグの説明
6232802	MAIL FROM 段階で disconnecttransactionlimit がチェックされない
6233449	回帰:tcp_smtp_server と imap のどちらも、XFILE 6235303 をコアダンプする
6233479	inetDomainSearchFilter が設定されていない場合に、ドメイン内のユーザー検索フィルタを MMP が変更できるようにする必要がある
6234542	別のサーバー上のフォルダへの大きなメッセージのコピーが失敗する
6234674	文字列連結が、長すぎる追加引数を拒否しない
6234695	不正なルーチンへの呼び出しを処理しているときにスパムフィルタエラーが発生する
6235058	overquotastatus が有効になっている場合、iminitquota は mailuserstatus の制限容量超過をチェックおよび修復すべきである
6235382	local.store.overquotastatus をオンに設定しても、quotaoverdraft モードが自動的に有効にならない
6236243	Sieve の setdate サポートを整理する
6236245	Sieve 通知にサポートを追加し、新しいメッセージに元のメッセージが含まれるようにする
6237533	mbxoutil -o で、UID の大文字、小文字が異なる LDAP エントリを持つ行方不明のメールボックスが表示されない
6238652	「Mailbox corrupted, appears truncated」という無効なエラーが、ims_master から発行される
6239259	メッセージの送信が拒否された場合、MTA によって間違ったメッセージサイズがログに記録される
6239614	エクスポートされたメールボックスの From 行の先頭に改行がない
6239755	SMTP 接続が中止された場合に、より詳細なログ情報が必要
6240741	フォルダの管理は、適切な ACL セマンティクスを備えた特権付きアカウントだけが行えるようにすべきである
6240796	ims_master はシャットダウンタイムアウトの検出時に追加の受信者を延期させるべきである
6242994	imexpire コマンドの終了に時間がかかりすぎる
6243696	データベースでハングアップやロックが発生したときにハングアップ状態に陥る msprobe プロセスの数が多すぎる
6243967	ストレステストを 45 分間実行した後で、データベースのハングアップやデッドロックが発生する
6244028	msprobe が SSL 専用 MMP 設定を認識しない

表 4 Messaging Server 6.2 2005Q4 で修正されたバグ (続き)

バグ ID	バグの説明
6244207	msprobe が SSL ポートをテストできる必要がある
6244671	回帰: certmap.conf issuerDN に空白が含まれていると、解析エラーが発生する
6244723	一部の Windows フォルダで imbackup がハングアップする
6244775	管理サーバー: errno または h_errno に直接アクセスする、不適切に構築されたバイナリ
6244856	service.http.idletimeout に対して sanity チェックを行うべきである
6245470	mboxutil の操作は、-f ファイルからの入力をログに記録すべきである
6246028	job_controller は、再読み込み後に null メッセージ removefrompriorityqueue をコアダンプする
6246247	SMS チャネルは、ヘッダー処理 (he_) ルーチンでコアダンプする可能性がある
6247383	imsexport は、From 行に無効な形式の日付を生成する
6247677	imbackup のログメッセージは、どのファイルが問題なのかを示すべきである
6249578	ロギング RFE: インデックスファイルのオープン / 読み取り失敗メッセージの情報量を増やす必要がある
6250671	Messenger Express マルチプレクサ: セッション ID に「+」または「/」が含まれていると、ユーザーはログインページにリダイレクトされる
6251752	mshttpd が saslg glue_conn_new () でコアダンプする
6251852	メッセージストアのディスク利用可能性チェック機能を有効にしても、依然としてストアにメッセージが送信される
6252960	ALLOW_TRANSACTIONS_PER_SESSION オプションのチェック時に off-by-one エラーが発生する
6253743	sslconnect がコアダンプする
6255339	返信ジョブがアドレスからのエンベロープを通知ジェネレータに渡さない
6255489	デフォルト以外のドメイン内の別のユーザーによって作成された共有フォルダ内に、サブフォルダを作成できない
6259539	MTA SDK が、複数の受信者を持つメッセージをキューから削除する際に、コア (SEGV) をダンプする
6259896	MTA SDK エンベロープ受信者アドレス検索の失敗
6260796	imsimta clbuild がパッチ後処理中に失敗する
6261048	標準インストールでは SSL が有効化されるべきでない
6261136	制限容量を超過しているにもかかわらず、Communications Express 経由で送信済みフォルダにメッセージが追加される

表 4 Messaging Server 6.2 2005Q4 で修正されたバグ (続き)

バグ ID	バグの説明
6261566	遅延メッセージに対して複数の通知が送信される
6262295	MTA SDK が、不適切かつ混乱を招くエラーコードを報告する可能性がある
6262675	予期しない未解決の SSL ハンドシェイクメッセージのログレベルを調整する必要がある
6263895	PERSONAL_NAMES マッピングの結果と LDAP_PERSONAL_NAMES は、必要に応じて自動的に引用符で囲まれる必要がある
6264192	SMPP PDU の連番を 0x00000000 以外の値から開始できる必要がある
6264200	NOTIFY=SUCCESS が設定された状態で LMTP 経由で配信する際に、間違ったメッセージが送信される
6264543	Messaging Server のパッチは、ユーザーにわかりやすいように自動化される必要がある
6264566	MMP 操作のより詳細なロギングを求める要求
6265235	Messaging Server で inetDomainSearchFilter が設定されていると、トラストサークル SSO が失敗する
6265361	pthread_cond_timedwait() の呼び出し方法が不適切であった場合、SMS チャネルや MTA SDK が予期しない動作をする可能性がある
6265442	imsimta process コマンドの動作が Linux プラットフォーム上で異なる
6266169	configmsg_init_default() が設定を一度しか読み込まない
6267592	iminitquota は、「Unknown code __9F 242」の代わりに正しいエラーメッセージを発行すべきである
6268197	メールサーバーユーザーが読み取れないディレクトリからストアプロシージャーを実行すると、データベースログ累積エラーが発生する可能性がある
6268200	imsrestore -n が正しく動作しない
6268438	master_debug キーワードを指定しなくても、MTA デバッグログにメッセージが格納される
6268969	不在通知メッセージの送信時に、1024 文字ごとに不正な改行が挿入される
6269089	LMTP が「all addresses ugly」状態を検出した際に書き込まれる履歴行が、不完全である
6271555	ULA データベース内の誤植：「signing certificate」の代わりに「signing cert」となっている
6272281	日本語の文字を含むフォルダで readership コマンドが失敗する
6273362	テキスト mime タイプの内部強制テキストモード処理

表 4 Messaging Server 6.2 2005Q4 で修正されたバグ (続き)

バグ ID	バグの説明
6274098	mshttpd コア - バグ 6269460 の修正後に free 呼び出しが dm_dispose_result で異常終了するようになった
6274165	ジョブコントローラのクライアント API が読み取りエラーを正しく処理しない
6274166	送信データに NUL が含まれていると、ジョブコントローラが readline() でハングアップする可能性がある
6274342	CR がいないために MMP のログファイルが読み取れなくなる
6275540	msprobe の報告機能が aservice.cfg を開けない

重要な情報

次の項目について説明します。

- [インストールに関する注意事項](#)
- [互換性に関する問題](#)
- [Messaging Server 6.2 2005Q4 のマニュアルの更新](#)
- [障害者のためのアクセシビリティ機能](#)

インストールに関する注意事項

このインストールに関する注意事項は、Messaging Server 6.2 2005Q4 リリースに適用されます。

Messaging Server のインストールの概要

Sun Java Enterprise System 2005Q4 インストーラを使用して、Messaging Server をインストールします。

インストール手順については、『Sun Java Enterprise System 2005Q4 インストールガイド (Microsoft Windows 版)』を参照してください。

続いて、次のようにして Messaging Server を設定する必要があります。

- Directory Server Preparation Tool の comm_dssetup.pl を実行します。
- Messaging Server 設定プログラムを実行します。

¥etc¥hosts ファイルエントリのチェック

Messaging Server を初めてインストールする場合、Windows システムの ¥WINNT¥system32¥drivers¥etc¥hosts ファイルに次のエントリがあるようにします。

```
<ip-of system> <FQHN> <hostname>
```

例: 129.158.230.64 budgie.siroe.varrius.com budgie

パッチの要件に関する情報

次の表に、配置パッチの番号と必要最低限のバージョンを示します。ここに記載したパッチはすべて、アップグレードに最低限必要なバージョン番号です。このリリースノートの公開後に、新しいバージョンのパッチが発行されている可能性があります。新しいバージョンは、パッチのバージョン番号の末尾の違いによって示されます。例: 123456-04 は 123456-02 の新しいバージョンですが、これらは同じパッチ ID です。固有の手順については、一覧の各パッチの README ファイルを参照してください。

パッチを利用するには、<http://sunsolve.sun.com> にアクセスしてください。

表 5 Windows に必要な Messaging Server 6.2 2005Q4 の配置パッチ

パッチ番号	パッチの説明
121527-01	Windows (MSI): Directory Preparation Tool
121523-01	Windows (MSI): 共有コンポーネント
121525-01	Windows (MSI): Sun Java™ System Messaging Server 6.2 2005Q4

Messaging Server の JES3 から JES4 へのアップグレード手順の詳細については、『Sun Java Enterprise System 2005Q4 Upgrade Guide for Microsoft Windows』(<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-4461>) を参照してください。

Delegated Administrator のインストールの概要

Delegated Administrator をインストールするには、Sun Java Enterprise System 2005Q4 インストーラを使用して次のコンポーネントをインストールします。

- Directory Server
- Messaging Server
- Web Server または Application Server
- Access Manager

Delegated Administrator ソフトウェアは、Access Manager とともにインストールします。

インストール手順については、『Sun Java Enterprise System 2005Q4 インストールガイド』を参照してください。

(<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-3313?l=ja>)

次に、次のようにして Delegated Administrator を設定する必要があります。

- Directory Server Preparation Tool の `comm_dssetup.pl` を実行します (Messaging Server をインストールした後にこのスクリプトを実行した場合、再度実行する必要はない)。
- Delegated Administrator の設定プログラム `config-commda` を実行します。

インストール後の設定手順については、『Sun Java System Communications Services Delegated Administrator ガイド』を参照してください。

互換性に関する問題

- 最新の Communications Express (Universal Web Client) と推奨されなくなった Messenger Express Web メールインタフェースの両方を実行している場合は、この2つのクライアントが使用するアドレス帳間では情報を共有しません。エンドユーザーがこの2つのクライアントインタフェースを切り替えて使用する場合、この2つのアドレス帳にはそれぞれ異なるエントリが入っています。
- Sun Java System Delegated Administrator (DA) は Web Server バージョン 6.0 に対応しています。LDAP ディレクトリがスキーマ 1 で作成されている場合、DA で引き続きメールユーザーをプロビジョニングするには、Web Server 6.0 で DA を使用してください。DA は Web Server 6.1 をサポートしていません。
- Sun Java System Access Manager は推奨されるシングルサインオン (SSO) 機能を提供しますが、Messaging Server は以前のバージョンのシングルサインオンのサポートを継続します。
- Communications Services のユーザー管理ユーティリティー (`commadmin`) は、Access Manager と互換性がある LDAP ディレクトリで Messaging Server ユーザーをプロビジョニングするのに推奨するメカニズムです。

Access Manager のサービスは、Messaging Server および Calendar Server LDAP ユーザーエントリの最小限のプロビジョニングだけを提供します。

Access Manager のサービスインタフェースでは入力確認を行わないため、機能しないユーザーエントリがエラーを報告せずに作成されます。Access Manager サービスインタフェースは、デモの目的でのみ使用します。

- Messaging Server には、異なるユーザーインタフェースで機能する次の2種類のメールフィルタが備わっています。
 - Sun Java System Delegated Administrator インタフェースが提供する従来のメールフィルタ
 - Communications Express と Messenger Express が提供する新しいメールフィルタ

2つのメールフィルタは併用できません。Delegated Administrator でメールフィルタ機能を使用する場合は、Communications Express または Messenger Express のメールフィルタを無効にします。また、Communications Express または Messenger Express メールフィルタを使用する場合は、Delegated Administrator のメールフィルタ機能を使用できません。

Messaging Server 6.2 2005Q4 のマニュアルの更新

Communications Services 6.2 2005Q4 リリースと同時に公開された文書は、このリリースノートだけです。

Messaging Server 関連マニュアル

すべての Messaging Server 6.2 2005Q4 マニュアルを参照するには、次の URL にアクセスしてください。

<http://docs.sun.com/app/docs/coll/1375.1?l=ja>

Messaging Server 6.2 2005Q4 のマニュアルは次のとおりです。

- 『Sun Java System Messaging Server リリースノート』
- 『Sun Java System Messaging Server 管理ガイド』
- 『Sun Java System Messaging Server Administration Reference』
- 『Sun Java System Messaging Server Developer's Reference』
- 『Sun Java System Messaging Server Messenger Express Customization Guide』

Communications Services 関連マニュアル

Communications Services 6.2 2005Q4 関連製品のマニュアルを参照するには、次の URL にアクセスしてください。

<http://docs.sun.com/app/docs/coll/1375.1?l=ja>

または

<http://docs.sun.com/app/docs/coll/1370.1?l=ja>

次のマニュアルが参照できます。

- 『Sun Java System Communications Services Delegated Administrator ガイド』
- 『Sun Java System Communications Services Schema Reference』
- 『Sun Java System Communications Services Event Notification Service Guide』
- 『Sun Java System Communications Express 管理ガイド』
- 『Sun Java System Communications Express Customization Guide』

障害者のためのアクセシビリティ機能

このメディアの出版以降にリリースされたアクセシビリティ機能を入手するには、Sun に米国リハビリテーション法 508 条に関する製品評価資料を請求し、その内容を確認して、どのバージョンが、アクセシビリティに対応したソリューションを配備するためにもっとも適しているかを特定してください。更新されたバージョンのアプリケーションは、<http://sun.com/software/javaenterprisesystem/get.html> にあります。

アクセシビリティに対する Sun の対応については、<http://sun.com/access> を参照してください。

既知の問題と制限事項

この節では、Messaging Server 6.2 2005Q4 (Windows 版) に関する既知の問題を説明します。

次の項目について説明します。

- [ログイン](#)
- [インストール](#)
- [ストレステスト](#)
- [設定](#)

ログイン

- Messaging Server サービスログオンを現在ログオンしているユーザーに変更するようにしてください。サービスコントロールマネージャーを使ってサーバーを起動および開始するのに十分な特権をユーザーに付与するために、そうする必要があります。
- 管理サーバーの http サービスログオンを、ログオンしているユーザーに変更するようにしてください。サーバーを起動および開始する特権を管理コンソールに付与するために、そうする必要があります。

インストール

インストールする製品として Instant Messaging、Messaging Server、および Calendar Server を選択する場合、ActivePerl 5.8.3 がシステムに事前にインストールされている必要があります。(6293991)

ストレステスト

Windows に負荷がかかると、接続タイムアウトエラーが発生する (6295747)

Windows に負荷がかかると、接続タイムアウトエラーが発生します。

回避策

1. 次のようにして、各サービスのスレッド数を 25 に設定します。


```
Configutil -o service.http.maxthreads -v 25
Configutil -o service.pop.maxthreads -v 25
Configutil -o service.imap.maxthreads -v 25
```
2. 新規ファイルに DELIVER_THREADS=5 と記述し、ims-ms_option という名前を付けて <server-root>%config ディレクトリに保存します。
3. 負荷の高い条件で Messaging Server を使用する状況に合わせて OS をチューニングする場合は、次の手順に従います。

特定のカーネルパラメータを変更して、Windows 2000 Advanced Server で Sun Java System Messaging Server が最適なパフォーマンスを得られるようにします。

- a. 次のようにして、レジストリエントリを編集します。
 - I. レジストリエディタ (RegEdit.exe) を実行します。
 - II. レジストリ内の次のキーに移動します。


```
HKEY_LOCAL_MACHINE\System\CurrentControlSet\Services\Tcpip\Parameters
```
 - III. 「編集」メニューから「値の追加」を選択して、次のエントリを作成します。

表 6 「値の追加」 エントリ

値の名前	データの種類	値	デフォルト値
TcpTimedWaitDelay	REG_DWORD	30 (10 進数)	0xF0 (10 進数 240)。デフォルトではレジストリに存在しない
MaxUserPort	REG_DWORD	50000 (10 進数)	0xF0 (10 進数 240)。デフォルトではレジストリに存在しない

- b. 「システムのプロパティ」で、「パフォーマンス オプション」を「アプリケーション」に設定します。
 - I. 「マイ コンピュータ」> 「プロパティ」
 - II. 「詳細」タブを選択して「パフォーマンス オプション」に進み、上に示したようにパラメータを設定します。

設定

インストール時自動設定中にディスクパッチャーがハングアップする。Microsoft Windows XP (6278215)、Microsoft Windows 2003 (6336350)

回避策

1. インストール中の起動を **Ctrl+C** を押して停止し、インストールを継続します。
2. インストールが完了した後に、コマンド行に `start-msg` を入力して **Messaging Server** を起動します。

インストール時自動設定中に、IMAP と POP のデフォルトポートがそれぞれ 1143 と 1110 に設定される。IMAP と POP の mmp ポートはそれぞれ 143 と 110 に設定される。

回避策

ポートを変更するには、次のようにします。

1. `Aservice.cfg` ファイル (`<instance-dir>%server-root%config`) を編集します。
2. デフォルトの **mmp** ポートを変更します。
3. `Configutil` コマンドを実行して、IMAP と POP のデフォルトポートを変更します。
4. **Messaging Server** を再起動します。

再配布可能なファイル

Messaging Server 6.2 では、次のファイルを再配布できます。

- ライセンスが許可されている Messaging Server ディストリビューションにおいてのみ、次のファイルをソース (HTML および Javascript) またはバイナリ形式 (GIF ファイル) で再配布できます。
 - `msg_svr_base¥config¥html` (サブディレクトリを含む)
 - `msg_svr_base¥install¥config¥html` (サブディレクトリを含む)これらのファイルを単独で配布することは禁止されています。
- 次のヘッダーファイルは、Messaging Server API を使って対話するプログラムを作成および配布する場合、Messaging Server と相互運用または統合するために文書化された API を使用して顧客が作成したコードをコンパイルする場合、および Messaging Server のマニュアルで明示的に説明されている方法を利用する場合にのみ、コピーおよび使用することができます (ただし、変更はできない)。
 - `msg_svr_base¥examples¥meauthsdk¥expapi.h`
 - `msg_svr_base¥examples¥tpauthsdk¥authserv.h`
 - `msg_svr_base¥include` ディレクトリ内のすべてのファイル (デフォルトの場所)
- 次のファイルは、文書化された API を使用して Messaging Server と統合するプログラムを記述するときの参照として利用する場合にのみ提供されています。
 - `msg_svr_base¥examples¥meauthsdk¥`
 - `msg_svr_base¥examples¥tpauthsdk¥`
 - `msg_svr_base¥examples¥mtasdk¥`

Sun Java System Communications Services Delegated Administrator 6 2005Q4

このリリースノートでは、Messaging Server Communications Services Delegated Administrator 6.3 2005Q4 (Windows 版) のリリース時点における重要な情報について説明します。このリリースには、既知の問題点と制限事項、およびその他の情報が含まれています。

このリリースノートには、以下の項目があります。

- [Delegated Administrator 6.3 2005Q4 について](#)
- [Delegated Administrator 6.3 2005Q4 の新機能](#)
- [Delegated Administrator 対応のブラウザ](#)
- [Java Enterprise System コンポーネント](#)
- [配備のガイドライン](#)
- [ハードウェア要件](#)
- [ブラウザ](#)
- [既知の問題と制限事項](#)

Delegated Administrator 6.3 2005Q4 について

Sun Java System Communications Services Delegated Administrator を使用すれば、Messaging Server や Calendar Server などの Communications Services アプリケーションが利用する LDAP ディレクトリ内での、組織 (ドメイン)、ユーザー、グループ、およびリソースのプロビジョニングを行えます。

Delegated Administrator ツールには次の 2 つのインターフェースがあります。

- `commadmin` コマンドで起動されるユーティリティー (一連のコマンド行ツール)。
- Web ブラウザ経由でアクセス可能なコンソール (グラフィカルユーザーインターフェース)。

管理者が GUI を使用して LDAP ディレクトリでユーザーをプロビジョニングする方法については、Delegated Administrator コンソールのオンラインヘルプを参照してください。

Delegated Administrator を設定および管理する方法や `commadmin` コマンド行ツールについては、『Sun Java System Communications Services 6 2005Q4 Delegated Administrator 管理ガイド』を参照してください。

Delegated Administrator 6.3 2005Q4 の新機能

Communications Services Delegated Administrator を使用する場合は、ユーザーは LDAP スキーマ 2 ディレクトリのみでプロビジョニングできます。LDAP スキーマ 1 ディレクトリで Messaging Server ユーザーをプロビジョニングするには、推奨されなくなったツールの iPlanet Delegated Administrator を使用する必要があります。

Delegated Administrator 6 2005Q4 リリースに実装された新機能は、次のとおりです。

- **Delegated Administrator** コンソールのインタフェースが改良されました。たとえば、次のように機能が拡張されました。
 - 組織ビューに複数のタブを含む行がさらに追加されました。追加されたこれらのタブを選択することで、ユーザー、グループ、カレンダーリソース、サービスパッケージ、プロパティの一覧を表示できます。
 - 組織のユーザーリストに、各ユーザーの電子メールアドレス、メールボックスの状態、各ユーザーに割り当てられているサービスパッケージが表示されるようになりました。

Delegated Administrator コンソールは Calendar Server をサポートします。

これまでのリリースでは、Delegated Administrator ユーティリティ (commadmin) だけが Calendar Server をサポートしていました。

次に、Calendar Server のサポートで実装されるコンソール機能を箇条書きで示します。

- 組織、ユーザー、グループにカレンダーサービスを追加できる。
- コンソールでグループの作成と管理を行える。Calendar Server のサポートに必要なメールサービス (メーリングリスト) をグループが利用できます。
- コンソールでカレンダーリソースの作成と管理を行える。
- サービスパッケージにカレンダーサービスを含めることができるようになった。

Delegated Administrator 対応のブラウザ

Delegated Administrator は次のブラウザを使用して表示できます。

- Netscape™ Communicator 6.2.x、7
- Internet Explorer™ 5.5 以上
- Mozilla™ 1.0 以上

Java Enterprise System コンポーネント

このリリースの Delegated Administrator には、次の Java Enterprise System コンポーネントが必要です。

- Directory Server 5.2
- Access Manager 7.0
- Messaging Server 6 または Calendar Server 6、あるいは両方

Messaging Server の要件については、第 2 章の「このリリースで修正されたバグ」(56 ページ)を参照してください。

Calendar Server の要件については、第 1 章の「既知の問題と制限事項」(32 ページ)を参照してください。

- Java Enterprise System Web コンテナ。Delegated Administrator を次の Web コンテナのいずれかに配備する必要があります。
 - Sun Java System Web Server 6.1 sp5
 - Sun Java System Application Server 8.x

LDAP スキーマ 2。このリリースの Communications Services Delegated Administrator では、LDAP スキーマ 2 ディレクトリでユーザーをプロビジョニングする設計になっています。

Directory Server、Access Manager、Web Server、および Application Server の要件については、各製品の現在のリリースノートを参照してください。

この節に挙げられている Java Enterprise System コンポーネントのインストール手順については、『Sun Java Enterprise System インストールガイド』を参照してください。

配備のガイドライン

Delegated Administrator ソフトウェアには、ユーティリティーとコンソールだけではなく、サーバーコンポーネントも含まれています。

Delegated Administrator サーバーは、Access Manager が使用する Web コンテナに配備する必要があります。

Delegated Administrator コンソールは、サポートする別の Web コンテナに配備することができます。

ハードウェア要件

Delegated Administrator のメモリーとディスク容量に関する要件は、Delegated Administrator の配備先 Web コンテナの要件と同じになります。

Web コンテナのハードウェア要件については、この Java Enterprise System コンポーネントの現在のリリースノートを参照してください。

ブラウザ

Delegated Administrator コンソールは、JavaScript に対応したブラウザを必要とします。

表 7 Delegated Administrator コンソール用の推奨ブラウザ

ブラウザ	Solaris 8 (Sparc 版)、Solaris 9 (Sparc 版および X86 版)、Solaris 10 (Sparc 版および X86 版)	Microsoft Windows 98	Microsoft Windows 2000	Microsoft Windows XP	Red Hat Linux 7.2	Macintosh OS X
Netscape™ Communicator	7.1	7.1	7.1	7.1	7.1	7.1
Internet Explorer	なし	6.0 SP1 以降	6.0 SP1 以降	6.0 SP2	なし	なし
Mozilla™	1.4	1.5+	1.5+	1.5+	1.5+	1.5+

既知の問題と制限事項

ここでは、Delegated Administrator 2005Q4 に関する既知の問題と制限事項の一覧を示します。

サーバーエラー：新規ユーザーの作成または既存ユーザーの編集を行おうとすると、管理者がログアウトしてしまう。(6234660)

この問題が発生するのは、組織の「ユーザー」ページに多数のユーザーが含まれていて、開いたそのページがまだ既存のユーザーを読み込み中であるのに、ユーザーの作成や編集を行おうとした場合です。ページの読み込み中は、ユーザーに待機を要求するメッセージが表示されます。ページの準備が整うまで、ボタンやリンクをクリックしないでください。

多数の組織が含まれる「組織」ページを開いたときにも、同じ問題が起きます。

回避策

「ユーザー」ページの読み込みに時間がかかる場合は、`jdapi-wildusersearchresults` プロパティを十分低い値に設定して、ページが高速に読み込まれるようにできます。

例：

```
jdapi-wildusersearchresults=50
```

「組織」ページの読み込みに時間がかかる場合は、`jdapi-wildorgsearchresults` プロパティを低い値に設定します。

例：

```
jdapi-wildorgsearchresults=10
```

`jdapi-wildusersearchresults` と `jdapi-wildorgsearchresults` は `resource.properties` ファイル内のプロパティです。

`resource.properties` ファイルは、次のデフォルトパスにあります。

```
da_base/data/WEB-INF/classes/sun/comm/cli/server/servlet/resource.properties
```

ディレクトリに非常に多くの組織が配備されている場合、Delegated Administrator 設定プログラム (`config-commda`) のパフォーマンスは低速になる。(6219610)

ディレクトリにかなり多数の組織 (50,000 以上) が含まれている場合は、Delegated Administrator 設定プログラム (`config-commda`) が完了するのに長い時間がかかることがあります。Access Manager に関連する管理タスクのパフォーマンスは低速です。

回避策

`ou` 属性に `pres, eq` インデックスを作成します。

`config-commda` プログラムによって Delegated Administrator が再設定されると、`resource.properties` ファイル内の値が上書きされる。(6218713)

`config-commda` プログラムを再実行して設定済みの既存の Delegated Administrator インストールを設定した場合、`resource.properties` ファイル内のプロパティがデフォルト値にリセットされます。

たとえば、以前にプロパティを次のように設定していたとします。

```
jdapi-wildusersearchresults=50
```

```
jdapi-wildorgsearchresults=10
```

このとき、`config-commda` を実行すると、これらのプロパティが次のようにデフォルト値にリセットされます。

```
jdapi-wildusersearchresults=-1
```

```
jdapi-wildorgsearchresults=-1
```

この問題を解決する必要が生じるのは、Delegated Administrator の設定を変更した場合 (プラグインを有効にしたか、`resource.properties` ファイル内のいずれかのプロパティの値を変更した場合) だけです。

回避策

Delegated Administrator をアップグレードする必要が生じた場合や、`config-commda` プログラムを何らかの理由で再実行する必要が生じた場合、次の手順に従えば既存の設定を維持できます。

1. `resource.properties` ファイルをバックアップします。
`resource.properties` ファイルは、次のデフォルトパスにあります。
`da_base/data/WEB-INF/classes/sun/comm/cli/server/servlet/resource.properties`
2. `config-commda` プログラムを実行します。
3. `config-commda` プログラムによって作成された新しい `resource.properties` ファイルを、次のようにして編集します。
 (新しいファイルは、手順1「`resource.properties` ファイルをバックアップします。」で示したデフォルトパスに格納されている)
 - a. 新しい `resource.properties` ファイルを開きます。
 - b. `resource.properties` ファイルのバックアップコピーを開きます。
 - c. バックアップコピー内でカスタマイズされたプロパティを探します。そのカスタマイズ値を、新しい `resource.properties` ファイル内の対応するプロパティに適用します。

新しい `resource.properties` ファイルの全体をバックアップコピーで単純に上書きしないでください。新しいファイルには、このリリースの Delegated Administrator をサポートするために作成された新しいプロパティが含まれている可能性があります。

新しく作成されたユーザーがドメインのタイムゾーン (TZ) を継承しない。(6206160)

デフォルト以外のタイムゾーンを持つドメインを作成したあと、`-T <timezone ¥>` オプションを明示的に使用せずに新しいユーザーを作成した場合、そのユーザーにはデフォルトのタイムゾーン「`America/Denver`」が設定されます。

たとえば、「`Europe/Paris`」のタイムゾーンを持つ、`sesta` という名前のドメインを作成したとします。次に、`sesta` 内で新しいユーザーを作成します。そのユーザーにはデフォルトのタイムゾーン「`America/Denver`」が設定されます。

回避策

ユーザーを作成または変更する場合、`commadmin user create` または `commadmin user modify` コマンドに `-T <timezone ¥>` を明示的に渡します。

管理者を正常に追加するには「組織のプロパティ」ページを保存する必要がある。(6201912)

「組織のプロパティ」ページを開き、管理者ロールを特定のユーザーに割り当てた場合、「組織のプロパティ」ページを保存しないと管理者が正しく追加されません。新しい管理者の割り当て後にログアウトした場合、その管理者は追加されません。

組織内のユーザーからすべてのサービスパッケージを削除した後に、「サービスパッケージ」ページで新規のサービスパッケージを割り当てると、新規サービスパッケージの割り当てが失敗する。(6198361)

この問題が発生するのは、ユーザーからすべてのサービスパッケージを削除してから、「サービスパッケージ」ページでそのユーザーに対してサービスパッケージを追加した場合です。

次のいずれかの場合に、新規サービスパッケージをユーザーに追加できます。

- 新規サービスパッケージを追加する前に、少なくとも 1 つのサービスパッケージがユーザーに割り当てられている (つまり、すべてのサービスパッケージが削除されてはいない)。
- 「組織」の「ユーザー」ページを使用して、新規サービスパッケージを追加する。

回避策

次の手順を実行します。

1. 「組織」の「ユーザー」ページを開きます。
2. ユーザーを選択します。
3. 「サービスパッケージを割り当て」ボタンをチェックして、希望するサービスパッケージを選択します。

新しい組織の名前に非 ASCII 文字が含まれていると、デフォルト管理者の電子メールアドレスを指定できないため、エラーが発生する。(6195040)

デフォルト管理者の UID はデフォルトで「admin_new_organization_name」になります。新しい組織の名前に非 ASCII 文字が含まれていた場合、その UID を使用する電子メールアドレスが無効になります。

組織からサービスパッケージを削除すると、次のメッセージが表示される。「サービスパッケージの割り当ては変更されていません」(6190486)

組織からサービスパッケージを削除して「保存」をクリックすると、サービスパッケージは削除されますが、「サービスパッケージの割り当ては変更されていません」メッセージが誤って表示されます。

共有組織ウィンドウは、利用できるドメイン名をサービスプロバイダの管理者に対して表示しない。(6182985)

サービスプロバイダの管理者 (SPA: Service Provider Administrator) が Delegated Administrator コンソールにログインし、共有組織を表示すると、コンソールの「ドメイン名」フィールドには現在割り当てられているドメイン名が表示されません。

これらのドメイン名は、この組織に sunAvailableDomainNames 属性で現在割り当てられている値のほずです。

さらに、コンソールは SPA のプロバイダ組織ノードで利用できるドメイン名の一覧から SPA が追加のドメイン名を組織に割り当てることができるようにする必要があります (ドメイン名値を sunAvailableDomainNames 属性に追加する)。プロバイダ組織からのドメイン名は、sunAssignableDomainNames 属性に含まれています。

このリリースの Delegated Administrator ではユーザーのログイン ID を編集できない。(6178850)

ルートのサフィックスの名前が組織のドメイン名と同じである場合、Delegated Administrator ユーティリティーが機能しない。(5107441)

ルートサフィックスが o=example.com、ドメインが example.com である場合など、ドメイン名と同じ名前を持つルートサフィックスを作成した場合、commadmin ユーティリティーが正しく機能しません。

回避策

ルートサフィックスとディレクトリ内の別のドメインに同じ名前を使用するのを避けます。o=name 値は、異なる必要があります。

詳細検索機能が組織に対して正しい結果を返さない。(5094680)

この問題は、次のように操作すると発生します。

1. 詳細検索機能を選択します。
2. ドロップダウンリストから「組織」を選択します。
3. 「以下のすべてに一致」、「以下の一部に一致」のいずれかのラジオボタンをクリックします。
4. ドロップダウンリストから特定の組織名を選択します。
5. テキストフィールドに有効な値を入力します。
6. 「検索」をクリックします。

Delegated Administrator は、検索条件に一致する組織のみを返す代わりに、すべての組織を表示します。

「新規組織」ウィザードの「要約」ページに表示されない組織詳細が存在する。(5087980)

「新規組織」ウィザードを使って新しい組織を作成する場合に、「ドメインのディスク制限容量」や「メールサービスの状態」などの一部の詳細情報が、このウィザードの「要約」ページに表示されません。

ASCII 以外のグループを変更できない。(4934768)

ASCII 以外の文字を含むグループ名を使って作成されたグループは、`commadmin group modify` コマンドを使っても変更できません。

たとえば、`commadmin group create` コマンドの `-G` オプションに対して ASCII 以外の文字を含むグループ `XYZ` を指定すると、`XYZ` のメールアドレスはそのグループの LDAP エントリに自動的に追加されます。ASCII 以外の文字はメールアドレスでは許可されないため、`commadmin group modify` を使ってグループを変更しようとしても失敗します。

回避策

グループを作成するときは、`-E email` オプションを使用してください。このオプションには、グループのメールアドレスを指定します。次に例を示します。`commadmin group create -D admin -w password -d siroe.com -G XYZ -S mail ¥¥ -E testgroup@siroe.com`

複数の `-f` オプションでグループを作成しても、1 つの属性しか追加されない。(4931958)

ダイナミックグループを作成するために複数の `-f` オプションを `commadmin group create` コマンドに指定しても、最後の `-f` オプションに指定した値だけが LDAP エントリに追加されます。ほかの値は追加されません。

回避策

commadmin group create コマンドを使用するときは、複数の -f オプションを指定しないでください。

ローカリゼーション

この節では、Delegated Administrator のローカリゼーションに関する問題について説明します。

Delegated Administrator: エラーメッセージ「The organization already exists」がローカライズされていない (6201623)

既存の組織と同じ名前で組織を作成しようとする、Delegated Administrator から次のエラーメッセージが表示されます。「The organization already exists.」このメッセージは英語であり、翻訳されていません。

問題のレポートとフィードバックの提供方法

Sun Java System Messaging Server で問題が発生した場合は、次の方法で Sun カスタマサポートにお問い合わせください。

- Sun ソフトウェアのサポートサービスのオンライン
<http://www.sun.com/service/sunone/software>

このサイトには、メンテナンスプログラムとサポート連絡先番号だけでなく、ナレッジベース、オンラインサポートセンター、および ProductTracker へのリンクがあります。

- メンテナンス契約で定められた連絡先の電話番号

できるだけ確実に問題に対処できるようにするため、お問い合わせの際は以下の情報を用意してください。

- 問題の詳細 (問題が発生した状況や業務への影響など)
- マシンのタイプ、オペレーティングシステムのバージョン、および製品のバージョン (問題の発生に影響をあたえている可能性のあるパッチやその他のソフトウェアなど)
- 問題を再現するための具体的な手順の説明
- エラーログまたはコアダンプ

また、製品および今後の予定についての製品チームからの定期的な最新情報を提供する Sun Java System Communications 製品の顧客ニュースレターを購読すると役に立つ場合があります。購読申し込み先:<http://subscriptions.sun.com/comms/maillinglist.html>

コメントの送付方法

Sun では、マニュアルの改善に努め、ユーザーからのご意見、ご提案をお待ちしております。

ご意見は、<http://docs.sun.com> にアクセスして、「コメントの送信」をクリックしてお送りください。オンラインフォームにマニュアルのタイトルと Part No. を入力してください。Part No. は7桁または9桁の数字です。この番号は、ブックやマニュアルの表紙に記載されています。たとえば、このマニュアルのタイトルは『Sun Java System Messaging Server 6.2 2005Q4 リリースノート (Microsoft Windows 版)』、Part No. は 819-5861 です。

Sun が提供しているその他の情報

次のインターネット上のサイトから、Sun Java System の有用な情報を入手できます。

- Documentation for Sun Java System Messaging Server
<http://docs.sun.com/app/docs/coll/1375.1?l=ja>
- Sun Java System のマニュアル
<http://docs.sun.com/app/docs/prod/entsys.05q4?l=ja>
- Sun Java System プロフェッショナルサービス
<http://www.sun.com/service/sunps/sunone>
- Sun Java System ソフトウェア製品とサービス
<http://www.sun.com/software>
- Sun Java System ソフトウェアのサポートサービス
<http://www.sun.com/service/sunone/software>
- Sun Java System サポートおよびナレッジベース
<http://www.sun.com/service/support/software>
- Sun トレーニングとサポート
<http://training.sun.com/>
- Sun Java System コンサルティングおよびプロフェッショナルサービス
<http://www.sun.com/service/sunps/sunone>
- Sun 開発者向け情報
<http://developers.sun.com>
- Sun 開発者サポートサービス
<http://www.sun.com/developers/support>
- Sun のソフトウェアデータシート
<http://www.sun.com/software>

Copyright © 2006 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.

本書で説明する製品で使用されている技術に関連した知的所有権は、Sun Microsystems, Inc. に帰属します。特に、制限を受けることなく、この知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> の一覧に示される米国特許、および米国をはじめとする他の国々で取得された、または申請中の特許などが含まれています。

SUN PROPRIETARY/CONFIDENTIAL.

U.S. Government Rights - Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

ご使用はライセンス条項に従ってください。

本製品には、サードパーティーが開発した技術が含まれている場合があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいて開発されている場合があります。

この製品には、カーネギメロン大学の Computing Services (<http://www.cmu.edu/computing/>) で開発されたソフトウェアが含まれています。

Sun、Sun Microsystems、Sun ロゴ、Java、および Solaris は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用されている、米国および他の国々における同社の商標または登録商標です。